

水 振 協 ニ ュ ー ス

(平成 27 年度号)

編集・発行 (公財) 滋賀県水産振興協会

草津市志那町柿根 1393-2

TEL 077 (568) 3451

FAX 077 (568) 3788

平成 27 年度の放流事業結果は・・・

- ・「ニゴロブナ 1,152.5 万尾・ホンモロコ 1,170.2 万尾・ワタカ 26.9 万尾」を放流！
- ・「人工河川 アユ親魚 11.6 トンの放流」を実施！「22.8 億尾のアユふ化仔魚」が琵琶湖へ流下！
- ・「前年度に引き続き、セタシジミ資源回復の技術開発を行うため、セタシジミ増殖実証事業」を実施！

ニゴロブナ

2 cm 稚魚の放流尾数は、水田育成が 826 万尾(計画 600 万尾)、栽培漁業センター及び北山田地先筏(草津市)での生産放流が 59.7 万尾で、合計 885.7 万尾でした。また、平均体重 18.9 g の大型稚魚 41.0 万尾を栽培漁業センター、平均体重 19.1 g の大型稚魚 16.3 万尾を北山田地先筏で生産し、さらに滋賀県漁業協同組合連合会(県漁連)から平均体重 17.5 g の大型稚魚 7.5 万尾を購入し、合計で 64.8 万尾(計画 67.5 万尾)を放流しました(放流内訳は南湖 40.0 万尾、北湖 24.8 万尾)。その他に、県漁連では平均体重 13.9 g の大型稚魚 14.4 万尾を独自事業として北湖へ放流しています。

水田育成 主に沿湖漁業協同組合の御協力により実施し、458 反の水田にふ化仔魚換算で 1,722 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2~3 cm の稚魚 826 万尾を琵琶湖に放流しました(放流内訳は南湖 275 万尾、北湖 551 万尾)。水田からの稚魚の流下率(流下尾数/放養尾数)は約 48%でした。

また、赤の井湾周辺の水田(守山市) 49.71 反にふ化仔魚 202 万尾(計画 200 万尾)を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数/放養尾数)が約 45.4%で、約 91.7 万尾の稚魚が赤の井湾地先に流下しました。

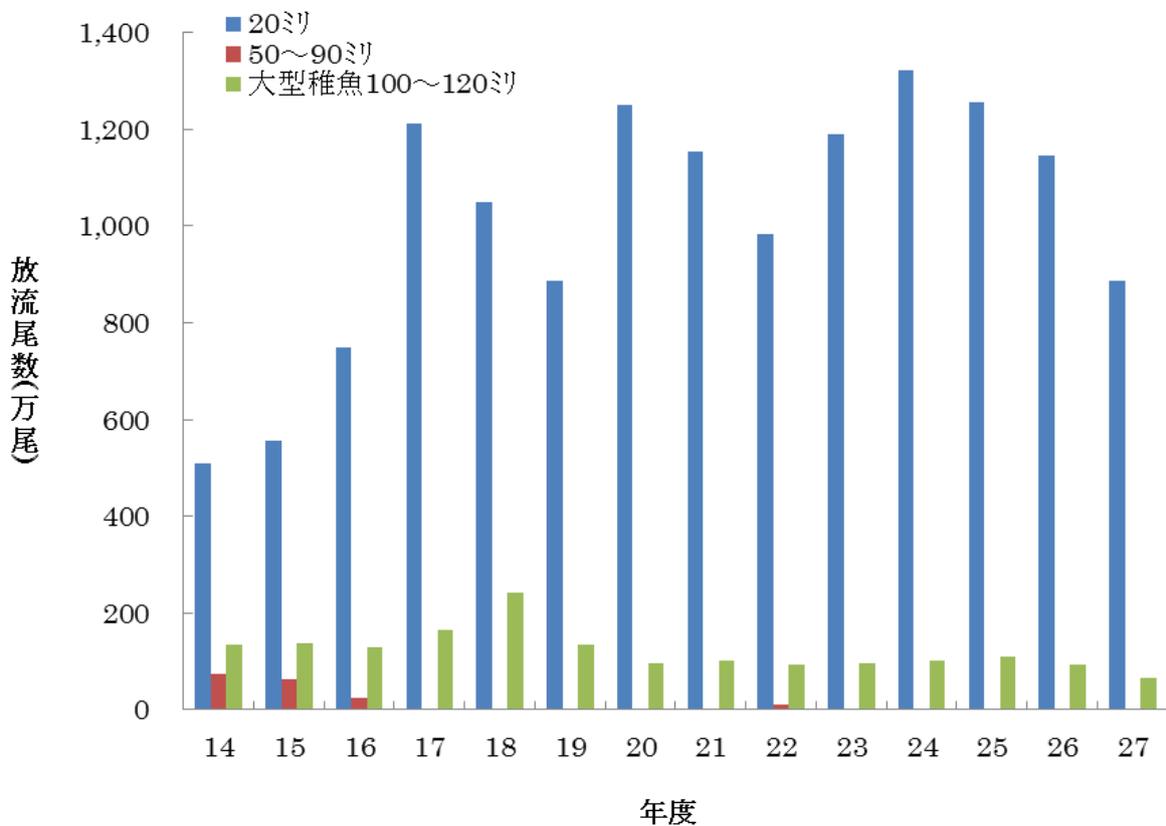
放流効果 当協会では種苗放流の事業効果を知るために、平成 28 年 2~3 月の今冬季に、小糸網、沖曳網漁業で漁獲されたニゴロブナの標識調査を行っています。今冬季の放流魚の混獲率(漁獲魚に占める放流魚の割合)は調査中ですが、平成 27 年 2~3 月(冬季)の放流魚の混獲率は 38.5%(前年は 30.5%)でした(北湖での漁獲物調査)。それら放流魚のうち、水田放流の稚魚と沖合及び沿岸に放流した大型稚魚の混獲の内訳は、各々 21.4%と 17.3%でした。近年、北湖での放流魚の混獲率は減少傾向に転じており、このことは逆に天然魚の割合が増加傾向にあることがうかがえます。また、平成 27 年 3~5 月の南湖における放流魚の混獲率は、77.6%(内訳は水田放流の稚魚が 5.8%、大型稚魚が 71.8%)でした。なお、南湖における放流魚の混獲率に関しては、調査尾数を増やして今後継続してモニタリングしていく必要があると思われます。



水田から流下した2~3cmに育ったニゴロブナ稚魚
(流下調査時)



ニゴロブナ大型稚魚の放流
(北湖,水試琵琶湖丸より放流)



ニゴロブナの年度別放流尾数(万尾)の推移

ホンモロコ

水田育成 ニゴロブナと同様に、より放流効果の高い水田の生産力を利用して 2～3 cmの稚魚に育ててから、中干時に琵琶湖へ放流しました。詳細につきましては、主に沿湖の土地改良区管内の農業者さんの御協力により実施し、879.4 反の水田にふ化仔魚換算で 2,722 万尾を放養し、約 1 か月後の中干時に 2～3 cmの稚魚 847.2 万尾(計画 800 万尾)を琵琶湖に放流しました(放流内訳は南湖 30.2 万尾、北湖 817.0 万尾)。水田からの稚魚の流下率(流下尾数／放養尾数)は約 31%でした。

また、赤の井湾周辺の水田(守山市) 66.22 反にふ化仔魚 205 万尾(計画 200 万尾)を放養しました。水産試験場の調査によりますと、流下率(流下尾数／放養尾数)が約 5.2%で、約 10.7 万尾の稚魚が赤の井湾地先に流下しました。

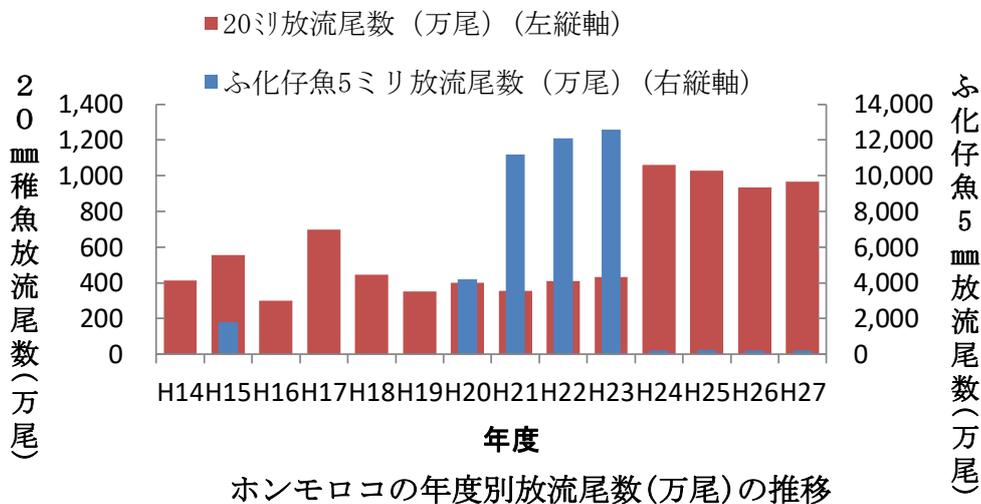
北山田地先筏 北山田地先筏(草津市)においても 2 cmの稚魚を生産し、118 万尾(計画 100 万尾)を南湖(草津市下笠地先)に放流しました。



水田から流下した2～3cmに育ったホンモロコ稚魚
(流下調査時)



北山田地先筏で生産したホンモロコ2cm稚魚の放流
(放流場所:草津市下笠地先)



ワタカ

栽培漁業センターでワタカ 5 cm稚魚 26.9 万尾(計画 23 万尾)を生産し、南湖に放流しました。

また、琵琶湖南部を中心に漁獲された 525 尾について標識調査を行い、その結果、漁獲されたワタカのうち放流魚は、90.1%(前年は 72.6%)を占めていることがわかりました。



ワタカ稚魚の放流(草津市志那地先)



ワタカの種苗生産(栽培漁業センター飼育池)

アユ (人工河川管理運用事業)

平成 27 年度は、早期放流用の養成親魚として、8 月 28 日～9 月 9 日にかけて親アユ 8,000 kg、338,600 尾を安曇川人工河川へ通常放流しました。また、姉川人工河川へは、9 月 5,6 日及び 8 日に姉川河口のヤナで特別採捕した天然親アユ 3,617 kg、413,000 尾を放流しました。それら放流親魚の産卵ふ化の結果、9 月 10 日～10 月 19 日にかけて合計で 22.8 億尾(前年比 124.6%)のふ化仔魚を琵琶湖へ流下させました。また、9 月 8 日には県の指定により田川上流域(長浜市)へ同じく天然親アユ 813 kg、100,100 尾を放流しました。



養成親魚の放流(安曇川人工河川)



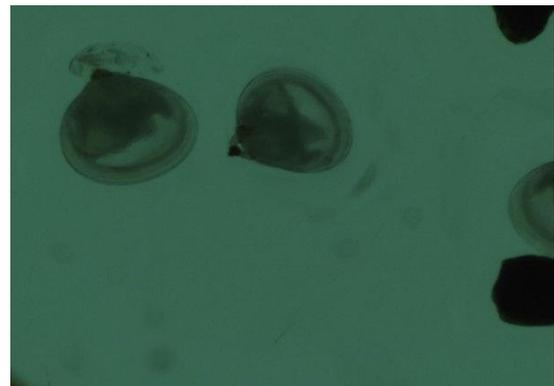
天然親魚(特別採捕)の放流(姉川人工河川)

セタシジミ (セタシジミ増殖実証事業)

平成 26 年 12 月から平成 27 年 2 月にかけて琵琶湖で採捕したセタシジミの親貝 616 kgを、肥満度を上げるため富栄養な西の湖まで移送、垂下し、肥育養成しました。垂下肥育養成期間中は、月 1 回程度、垂下親貝の清掃等の管理を実施し、平成 27 年 5 月には新たに設置した近江八幡、彦根市の地先 2 か所の産卵場へその肥育した親貝 456 kgを再移送し産卵させました。その結果、産卵後の 8 月における放流水域近辺のセタシジミ仔貝生息数は琵琶湖の他の生息水域よりも多く、肥育親貝放流の効果が表れたと思われます。



肥育親貝の再放流場所近辺でセタシジミ仔貝生息数調査
(彦根市地先)



仔貝生息調査で確認されたセタシジミ仔貝

最後になりましたが、県水産課、県水産試験場及び各関係漁業組合の各位に対しまして、種苗生産、放流及び標識調査にご協力頂きありがとうございました。